

東京農業大学稲花小学校

学校だより【2021年11月21日】第104号



俳句を楽しむ

11月16日(火)の稲花タイムでは、3年生が俳句の勉強をしました。ご指導は、東京農業大学名誉教授で俳人でもある中川純一先生です。雀を題材にした小林一茶の3つの句が紹介され、同じように雀が出ている句でも、季節の違いを読み取ることができると知り、子どもたちは俳句の世界に引き込まれていきました。続けて、俳句を1句考え、短冊に無記名で書いて提出。作者は誰かを明かさず、ホワイトボードに記された友だちや先生の句の中から、自分の好きな句を選んでいきます。どうしてその句を選んだのか、子どもの気持ちを聞きとりながら、中川先生がすべての句に温かいコメントをしてくださいました。初めての作句でもあり、季語や用語の使い方はまだまだでしたが、誰もが一句作り、作者については忖度することなしに好きな句を選ぶという楽しさを味わった授業でした。

次は2年生にも俳句の授業をお願いしています。観察眼に優れた子どもが多い農大稲花小です。優れた観察眼で得たもの、感じたことを、言葉で伸びやかに表現できる子どもに育ててほしいものです。

語彙を豊かに

本校の教育理念は「冒険心の育成」ですが、理念を具現化する教育方針「3つの心と2つの力」の一つが、コミュニケーション力です。そして、コミュニケーション力は、傾聴力や発信力などから成り立っています。本校の子どもたちは、毎日必ず英語と国語を勉強し、さらに様々な学習の中で多様なコミュニケーション力を養っています。しかし、語彙力、すなわち、いろいろな言葉を知り、それを上手に使うって適切に表現できる力は、子どもによってまだ様々です。

語彙力は科目を問わず学力に直結しています。思考力にも深く関わってきます。それだけでなく、自分の気持ちを適切に表現し、他人の気持ちを理解できるようになるためにも、語彙力は欠かせません。抑制できない行動や不機嫌な顔つきでなければ感情を表せない子ども、イライラし人を傷つける表現ばかりしてしまう子どもは、友だちや先生、あるいは家族に自分の気持ちを上手に伝えられないという苦しい状態にあります。

語彙力は様々な方法で高めることができます。読書はとても良い方法です。農大稲花小では朝読書の時間をはじめ、本に親しむ機会を作るようにしています。新しい分野の本にもチャレンジすると、さらに語彙は増えるでしょう。また、日ごろから丁寧な落ち着いたコミュニケーション

をする環境にいることも大切です。忙しい毎日ですが、ゆっくり子どもの話を聞くことからスタートし、ご家庭でも、家族そろって様々な話題の会話を楽しむ機会を作っていただければと思います。読書の習慣にしても、言葉遣いにしても、また楽しく会話を進める方法にしても、私たち大人が子どもたちの手本であることを忘れないようにしたいものです。

2年生は遠足に

新型コロナウイルス感染防止の観点から、去年は実施できなかった2年生の遠足。今年は、11月18日(木)に、新江の島水族館への遠足を実施することができました。植物や昆虫などの動物をはじめとする様々な生き物に親しんでいる2年生ですが、水の中の生き物に接する機会はあまり多くありません。それだけに、大水槽の中のマイワシの群れやエイ、多様なクラゲ、ペンギンなどを楽しく見て回り、イルカショーでは、子どもらしい伸び伸びとした表情を見せていました。江の島のレストランで生しらす丼の昼食を食べた後、気持ちよい風に吹かれながら389mの弁天橋を歩いて水族館に戻ったことも、楽しい思い出になることでしょう。

今回の遠足は、2年生にとってはほぼ初めての班行動を体験する機会でもありました。班長の下、時計係がタイムキーパーとなり、各班6人が一緒に水族館内を巡ることはできたでしょうか。ご家庭でもお子様に聞いていただければと思います。一般のお客さんもいる中で、残念ながら、声高になったり走ったりしてしまう子どもがいたことも事実です。しかし、友だち同士で注意し合い、良いマナーでも班行動をしようと努めた子どもたちの成長もうれしいものでした。

予定していた1年生の遠足は、訪問予定先が団体受け入れを再開していないため、現在のところ中止としています。一方、同じく実施できないままだった3年生の東京農業大学富士農場訪問は、富士農場のご協力で12月に実施できる見込みです。



登下校について

新型コロナウイルス感染防止の観点から密を避けることを主な目的として、学年ごとに少しずつ時間をずらして下校させています。緊急事態宣言が解除され、7時間目の授業を再開した現在も、3学年同時の下校にならないよう下校時刻の調整は続けています。これは引き続き、バス停や車内、通学路での混雑を緩和するとともに、公共マナーを守った通学ができるようにするためです。子どもたちの健康や安全に直結することですので、ご理解をお願いいたします。そして、保護者の皆様にも毎朝、正しいマスクの着用や予備マスクの携行、きれいなハンカチの携行と手洗いの励行、近距離で飛沫を受けないよう車内ではおしゃべりをしないことなどを、確認してから送りだしていただくようお願いいたします。下校についても、日が短いこの時期、通学経路の安全性について親子で確認されるとよいでしょう。

ダイコンの収穫

11月19日(金)、1年生は「農大稲花小の畑」で栽培してきたダイコンを収穫し、それぞれ一本ずつを持ち帰りました。1年生にとっては長さも重さもあるダイコンですが、自力で引き抜き、抱きかかえるようにして畑から学校へ戻ってきた表情は誇らしげです。ご家庭で余すところなく召し上がっていただきますように。

東京農業大学稲花小学校

校長 夏秋 啓子